

別紙：病児保育室つくし 受け入れ基準



【受け入れ可能な病気・状態】

以下のお子さまを対象としてお預かりします（通常の通院で治療可能な病気）。

◆ 発熱を伴う感染症

- ✓ 風邪、上気道炎、咽頭炎、扁桃炎
- ✓ 急性気管支炎（呼吸が安定している場合）
- ✓ 中耳炎（強い痛みがなく、全身状態が安定している場合）
- ✓ 発熱があっても、以下に該当すれば受け入れ可
元気がある、反応が良い、水分が十分摂れている、呼吸が普段通り

◆ 消化器症状（軽度～中等度）

- ✓ 胃腸炎で嘔吐・下痢が落ち着き始め、以下を満たす場合
嘔吐が数時間以上止まっている
下痢が頻回でない（1日3～4回程度）
水分が摂取できている
脱水症状がない
（明らかなノロ・ロタは対象外）

◆ 発疹を伴う病気

- ✓ 突発性発疹（解熱後で機嫌が安定）
- ✓ 手足口病（発熱が長引かず、飲食ができる場合）
- ✓ りんご病（発疹出現後の感染力が弱い時期）

◆ 慢性疾患の軽度悪化

- ✓ 喘息の軽度発作（会話・食事が問題なく可能）
- ✓ アトピー性皮膚炎の悪化（強い掻破がない場合）

◆ 外傷・軽度疾患

- ✓ 軽度の打撲、捻挫
- ✓ 熱性けいれん後、医師の許可があり、以下を満たす場合
解熱後2～3時間経過している
意識がはっきりしている
食事・水分が摂れる

【受け入れ不可（対象外）となる主な状態】

以下のお子さまは受け入れができません。

◆ 新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ急性期

- ✓ 高熱が続く（38.5 度以上）
- ✓ ぐったりしている
- ✓ 咳が強く、呼吸が苦しい

※インフルエンザは、「解熱後 24 時間以上経過」で条件付きにて受け入れ可

1. 全身状態が安定している
ぐったりしておらず、反応が良く元気が戻っている
2. 食欲・水分摂取が普段通りに近い
水分がしっかり摂れている、食事も普段の 7 割程度は摂れている
3. 呼吸状態が安定している
咳が落ち着いていてゼーゼーしておらず、呼吸が苦しくない
4. 高熱が再び出ていない
実測で解熱後 24 時間以上経過しており、解熱剤を使用してお知事的な解熱ではないこと
5. 重症化の兆候がない
顔色不良、無気力、呼吸が早い、胸の陥没呼吸などがない
インフルエンザ脳症を疑うような症状（意識の変化）がない

◆ 強い感染性胃腸炎

- ✓ ノロウイルス・ロタウイルス
- ✓ 次のいずれかに該当する場合
嘔吐が 1～2 時間に間に、2～3 回続く
水様便が 1 日 6 回以上
水分が摂れない
脱水症状（口の乾燥、涙が出ない、尿量低下）

◆ 強い感染力のある病気（代表例）

- ✓ 麻疹
- ✓ 風疹
- ✓ 流行性角結膜炎（はやり目）
- ✓ おたふく風邪の初期（発熱・強い疼痛を伴う場合）
- ✓ 百日咳
- ✓ 水痘の初期（全てが痂皮化するまで不可）

◆ 医療機関での管理が必要な状態

- ✓ 体温が 38.5 度以上で、次に該当する
 - 水分がほとんど摂れない
 - 顔色不良、ぐったり、反応が鈍い
- ✓ 呼吸状態の異常
 - 呼吸が早い（乳児：50 回以上/分、幼児：40 回以上/分）
 - 胸の陥没（陥没呼吸）
 - ゼーゼー、ヒューヒューが強い
- ✓ 痙攣が続く、または繰り返す
- ✓ 明かな脱水状態
 - 6 時間以上排尿がない
 - 口唇肝臓、涙が出ない
- ✓ 血便、血性嘔吐、緑色嘔吐などの緊急症状

■ 医師が「病児保育不可」と判断した場合

診断内容・全身状態による不可判断を優先する

- 【医師の判断が必要な（条件付き）受け入れ】
 - ✓ インフルエンザ回復期（解熱後 24 時間以上経過で全身状態良好）
 - ✓ 水痘回復期（全ての発疹が痂皮化後）
 - ✓ 溶連菌感染症（抗生剤開始 24 時間以上経過で発熱消失）
 - ✓ 中耳炎・気管支炎（呼吸状態が安定し、食欲・水分摂取良好）
- 【最終判断のポイント】
 - ① 全身状態
 - ✓ 元気、反応、呼び掛けへの応答
 - ✓ 食欲、水分摂取量、尿量
 - ✓ 呼吸状態（呼吸数、努力呼吸の有無）
 - ② 感染力の強さ
 - ✓ 他児から感染するリスク
 - ✓ 発症からの経過日数
 - ③ 医師の診断
 - ✓ 医療機関の指示書の内容
 - ✓ 医師の受け入れ可否判断